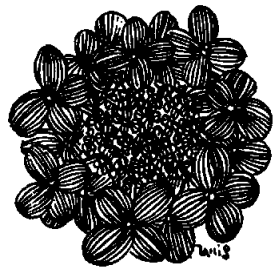
尾瀬から軍縮へ
そして「緑の地球防衛基金」へ



〈対　談〉

大石武一
八木健三
〔司　会〕　辻井達一

辻井　以前、会誌で湿原特集号（第一五号）を出し、湿原の問題をとりあげましたが、今度再び湿原を特集に組みたいということで、「湿原の保護」をテーマの一つとした大石先生と八木会長との対談を企画しました。

大石先生には初代環境庁長官として、日本の自然保護問題のさきがけとなった尾瀬について力を尽くされましたので、最初に尾瀬問題についてご意見をうかがいたい。つぎに北海道の湿原の印象や感想など、さらに広げて北海道全体の自然保護についてのご意見をいただきたいと思います。

■回想の尾瀬

大石　今日はこのような会合にお招きいただき恐縮です。八木さんから連絡があり、楽しみにしていました。

まず尾瀬の話ですが、最初は電源開発の水源に利用されようとして、何回も危機にさらされたが、皆の努力でなんとか守ってきたわけです。時代が変って観光に目が向けられ、尾瀬の真中に重要県道という名目の、実は観光道路の計画が進み、厚生省の許可も得て、すでに尾瀬の入口、大清水から道路が作られていたのです。私はそれまで尾瀬に行ったことはなかった。高等学校は仙台の二高ですが、野球選手をして体をこわし、山を歩く機会はなかった。その代り学生時代には二十万分の一の地図を買い込み、二〇〇〇m以上の山は全部地名や標高を覚えたものです。尾瀬や燧にも登りたい、至仏の高山植物も見たいと考えていた。

さて、昭和四十六年の七月五日に私は初代の環境庁長官になったのです。実は前から佐藤総理に環境庁長官になりたいと自薦しておったのです。私は子供の時から自然が好きで、日本の木は一本も切らないと夢のようなことを考えていました。希望通りに環境庁長官になったので、なんとか自然を守ろうと思っていたのです。

長官になって最初に行ったのが四日市で、公害のひどい状況を視察しました。その一週間後の夜、親しい新聞記者が青年をつれて来て、「尾瀬の平野長靖です」と紹介しました。長靖君は「いま尾瀬湿原をかすめて県道を通す計画があり、岩清水というすばらしいところも壊された。いろいろ努力したが止めようがない、このうえはあなたに頼る以外に途はありません。ぜひ守って下さい」と、とつとつと語りました。聞いているうちにひどく感動しました。「現場にゆきこの目で見たうえ決めよう」と、一週間後に行くことを約しました。

尾瀬に行きますと総勢が三〇人くらい。老神温泉に泊って翌朝、戸倉を経て鳩待峠までいった。鳩待峠で車を下りると、右へゆけば山ノ鼻小屋への下り道、左へゆけば至仏への登り道。その前までは体力に自信もなかったので、至仏に登るかどうか決めていなかった。ところが車を降りたら自然に足が左に向いて、至仏に登ることになってしまった。一つには弱虫だと言われたくなかったんでしょうね（笑声）。

八木　実は私も尾瀬にはいったことがなかったので、この対談のために、七月にいって来ました。天気に恵まれ、スケッチも沢山描けましたが、これはいまの鳩待峠から見た至仏です（スケッチを示しながら）。

大石　そうそう、こんな感じのゴツゴツした山で、木が一本もありませんですね。

八木　至仏は蛇紋岩でできていて、非常に地味に乏しいので木が育たないのです。

大石　なるほど。木がないので、ここには道なんかもないんですよ。

辻井　あの高山帯は、かなり自由に歩ける岩の多いところですね。

大石　頂上のあたりは高山植物が咲き乱れて、うれしかったですね。ヨツバシオガマ、それからヒメウスユキソウ、ホソバノヒメウスユキソウ、シナノキンバイなど、いっぱいに咲いてるんです。初めてオゼソウを教えられたんだが、これはたいしてきれいじゃないね。

辻井　珍しいものですよ。

大石　植物の名前をよく知ってたんで、新聞記者がぶったまげた。昼飯になり、皆その辺に平気で腰をおろした。でも花が一面に咲いてるでしょ、あたりを見廻して岩の上に腰かけて弁当を食った。これが記者にいい印象を与えたらしい。「この長官は花もよく知り大事にしている。これはまちがいなく本物だ」と……。

頂上からは山ノ鼻がすぐ下に見えるが、八〇〇mも下るのです。そのうち夕立がきたが、晴れ上がったら燧岳にかけて大きな虹がでましてね、尾瀬ケ原が実にすばらしかった。

滝のように水の流れるところを下るのですが、当時は体重が八〇キロ以上あったでしょう、膝がガクガク。山ノ鼻小屋では四つん這いでやっと二階に上がりました。つぎの朝、尾瀬ケ原を通ってゆきました。

八木　そのころはニッコウキスゲは咲いてましたか。

大石　もう終ってましたが、キンコウカというのが一面に咲いてました。

八木　私のいったときは、三平峠を下りてゆくと原っぱが一面黄色になっている。なんだと思って行ってみると、ニッコウキスゲの大群落でした。

大石　よかったでしょうね。私も環境庁のレインジャーに、いろいろ花を教えられて楽しかったですよ。

辻井　それで長蔵小屋にお泊りになった？

大石　いいえ、竜宮小屋とかで昼食のあと尾瀬ケ原から登って尾瀬沼につき、船で沼を渡って檜枝岐村の国民宿舎に泊りました。長靖が私を引っ張り出したんで、長蔵小屋では遠慮したんでしょう。夜は長蔵小屋で懇談会があり、楽しかった。

■尾瀬を守る

大石　帰りは三平峠越えで、ここで初めて道路の建設現場が見えたわけです。ひどいもんですね、山肌がえぐられていて。尾瀬のすばらしい自然を見たあとですから、本当に痛ましい感じがしました。

八木　私はバスで大清水までゆき、そこから川沿いの道を歩いて一ノ瀬休憩所を通り、岩清水まで行ました。大清水から岩清水までは車道はあるが、閉鎖されています。岩清水はすっかり壊されてますが、清水は出てました。そこからわずかな登りで三平峠の木道になります。ここが大石さんが道路を止めさせたところですね。全く「皮一枚で止まった」という感じです。あれ以上に車道が入っていたら、尾瀬はおしまいでしたね。

大石　本当に皮一枚で首がつながった。実は出かける前に、「環境庁に道路を止める権限があるかどうか」を、大井道夫という参事官に調べさせた。そのときは、あるような、ないような曖昧な返事だったが、「まあ、あることにしておこう」といって尾瀬に行ったんです。

三平峠を下りながら、いよいよ腹をきめた。「これは、どんなことをしても止めなきゃならん」。そこで後ろにいた長靖君を呼んで、人に聞かれないように小声で「この道路は必ず止めるからね」といった。彼は一言「ありがとうございます」といい、おじぎをしてまた後にいっちゃった。

その後、いろいろ調べてみました。厚生省が二回道路建設の許可を出している。建設省では念には念を入れ、二回許可をとったんでしょう。それまでにおそらく二〇億円くらい使っている。それを途中で止めるのは、行政としては考えられない。無駄使いになりますからね。

しかし止めなきゃならない。そこで三県の知事を召集したんです。新潟の亘　四郎知事はお互いに河野一郎の子分の代議士で人柄はいい男。群馬は神田坤六知事。福島の木村守江知事は医者仲間で、「尾瀬は好きでしょっちゅう歩いてるんだ。お前守ってくれよ」といって自分はこないで、副知事を寄こした。その席上、

「道路を止めてくれないか」と言ったら、群馬も新潟も絶対反対、福島はあまり言わないんです。新潟は「オレのところは只見ダムから県境まで、大金をかけて道路を作ったんだ。いまさらやめるわけにいかん」と頑強に反対した。

そんなわけで三時間くらい激論を斗わした。ずい分大声を出したらしく、廊下に聞えたそうです、真剣だったからね。とうとう「それじゃやめます」という結論になったんです。そのあとマスコミが猛烈にとりあげ、尾瀬の保護が日本の世論になったと思います。

八木　私も今度尾瀬を歩いてみて、大石さんの勇断に改めて感謝した次第です。尾瀬ほどゴミの少ないところはほかにない。ゴミ持ち帰り運動が浸透しているのも、尾瀬が日本の自然保護の原点という歴史的な事実によるものでしょう。これが、日本各地にひろがることを期待したいですね。

それからもう一つは、年間五十万人も入ることですね。先日、日本自然保護協会の荒垣会長にお会いしたとき、やはり「このオーバーユースが最大の問題だ。入山制限も考えねばならない」といっておられました。尾瀬だけではありませんが、車が入らないようにすることは、もっとも有効な入山制限になりますね。

■北海道の湿原

辻井　尾瀬は歴史的な自然保護問題だったと思いますが、時間もありますので、そろそろこの辺で。つぎに北海道の湿原について、大石先生は釧路、標津などもご覧になったと思いますが、その印象などをどうぞ。

大石　昨年の六月、八木さん達に呼ばれて日高山脈横断計画道路を見たり、標津から根室、釧路の湿原を見て歩き楽しかったです。あの中にはいろいろありますが、ぜひ国立公園に指定したいですね。昨年話し合ったんですが、その後あまり進んでませんか？

八木　釧路湿原は広さが二・九万haで、尾瀬の数十倍もあります。釧路の方ではぜひ国立公園にしたいと仕事を始めています。道の方でもこの際、基礎的調査をしてほしいということで、知事名で協会に委嘱があり、さきごろも私達調査してきました。

大石　ほう。知事もその気持になったんですね。多少は……。

八木　昨年もツルが見えましたが、今度は二〇倍の望遠鏡をかついで方々廻ったので沢山見ました。親仔づれなんかも手にとるように……。

辻井　釧路はいまのお話のようにタンチョウで有名で、天然記念物、また国際湿原条約、いわゆるラムサール条約のわが国唯一の指定湿原になっています。あと水鳥関係では千歳空港付近のウトナイ湖がサンクチュアリーになっています。北海道には海岸低地に湿原が多いわけですから、さらに加盟の湿原を拡大してゆく必要があるように思うんですが。

大石　ラムサール条約は風蓮湖はまだでしょう。宮城県の伊豆沼はガン四〇〇〇羽、ハクチョウ八〇〇〇羽が飛来し、ガンの渡来地ではわが国最大でしょう。イネが食われるとか、フナの漁業権とかで、まだラムサール条約に加盟していませんが、最近被害補償の町条例もできたので指定条件は整って来ました。風蓮湖は渡り鳥の最初にして最大の中継地でしょう。これは絶対に指定しなきゃだめですよね。

八木　風蓮湖では昨年も問題になりましたが、オホーツク海岸沿いに「望郷ライン」のハイウェーを作ろうという根強い動きがありましてね。地元の自然保護関係者や野鳥の会の会員などの強い反対を押えるために、サンクチュアリをつくってやるともいっているらしい。

大石　地元の人びとは、まさかそんなことでだまされないでしょうね。そんなサンクチュアリなんか別に国や道に出してもらわなくても、われわれの手でつくれますよ。あそこに道路をつくったら、めちゃめちゃになりますよ。あのハマナスの群落だって…。それからアカエゾマツの原生林も。それに鳥の渡来が変ってくるだろうし…。

八木　私達もそれを心配しているんです。しかも営林署には、大きなエゾマツは切った方が、小さい若木が育つんじゃないかという考えもあるようで。

大石　それは絶対にだめ。原生林をどう切ったらいいか、林野庁では何も研究していません。いい加減に手を加えたら破壊するだけ。絶対だめですよ。

■湿原と自然保護

辻井　いままで地元では目先の利益にとらわれるケースが多かったんですが、最近では知床の一〇〇平方m運動のようなものも、出てき始めています。自然に対する態度も先を見通すところも出始めたんじゃないですか。

大石　そうあってほしいですね。実は昨年札幌かどこかの駅で、「お座敷列車で一杯やりながら知床五湖へ」というポスターが張ってあるんですよ。あきれかえったね。なんでお座敷列車で一杯やりながら、あそこまでいかなきゃならんのか…。（笑声）

辻井　いかに国鉄が赤字といってもね…。（笑声）

大石　望郷ラインといっても、要するに新しい観光資源としてつくるわけでしょう。そのため、どんなに大きな代償を払わなきゃならないのか。大体、観光道路とか横断道路とか数百億という仕事は、私は全部利権だと思っている。地元は目先の利益しかわかりませんが、結局ダメになりますよ。

八木　望郷ラインは地元でかなり運動しているのですが、開発局あたりはむしろ否定的ですね。自然保護団体などの強い反対があるし、また来年は知事選挙もあるし…。そんな記事も新聞には出ていました。

大石　それが本当ならうれしいですね。もう少しはっきりと確めたうえ、公表しておいて下さいよ。

八木　確めておきましょう。それからただいま知床横断道路について、これが周囲の自然環境にどんな影響を与えたか、環境庁の委託で協会として調査を進めています。

大石　なんであんなところに道路を作るんですかね。車が通ったからとて、どれほどの意味があるんでしょう。なければ本当に自然を愛する人だけが歩くとこでしょうな。

ところで、釧路湿原は去年見たときもハンノキなんか生えたりして、乾燥化がだんだん進んでいましたね。早く国立公園にして、総合的に上流の川の調整が必要ですね。

八木　上流から生活排水が入り込んで、かなりの部分に富栄養化が進み、湿原の生態の変化が憂慮されています。

大石　去年見た標津の湿原は小さいけれど、大事に守られていますね。大きな町でもないのに、金をかけてよく保存しているのは感心ですね。

辻井　小さいが立派な資料館や、木道などの観察施設なんかも作りましてね。

大石　あそこでオオバナノエンレイソウを初めて見てうれしかった。それから霧多布の湿原も見ましたが、いいところでしたね。

八木　ひとつ問題は、標津、風蓮湖、霧多布など道東の湿原と、釧路湿原を合せて国立公園にするか、釧路だけを独立させるか……。

大石　まとめてできたら一番いいと思うけど、とりあえずやりやすいところから始めたらいいかも知れませんね。

辻井　風蓮湖や霧多布は一応道立の自然公園になっていますが、釧路だけが大変重要なのにそのままになっている。道立クラスですと、レインジャーもほとんどおりませんし、実質的には指定しただけということになる。できるだけバックアップしていただき、国立公園の指定が望ましいですね。

八木　これらの湿原に比べると面積は狭いが、火山にもいくつかの湿原があります。たとえばニセコ、雨竜沼、大雪山など。小規模ですが、あまり人が入りこまず比較的保存がいい。

辻井　湿原を国立公園に指定しても、周りからの影響もございますね。たとえば周囲の森林を伐採すると湿原の富栄養化が進んだり、土砂の流入量が多くなる。やはり、全体を見通したプランがないといけない。

昨日の大石先生の「地球から緑がなくなったら」のご講演にもあったように、森林がなくなるといろいろ影響が、湿原にも、また人間の生活にもでてくる。そのため湿原を守るにも、より大きな視点が必要ですね。そこでまたお話を少し拡げていただきたい…。

大石　おっしゃる通りなんです。ただ各地で条件が違いますから、一概にどういう方針でやれとはいえませんね。国立公園に指定しただけで守れるものでもありませんし、その周辺と調和して守るような行政が大切だと思います。

いま稚内に近いサロベツ原野では、湿原の草地化をすすめているでしょう。どれほどの農民が救えるのかわかりませんけどね。それより大事なサロベツ原野を湿原として長く保存した方が豊富の町のためにも、日本の将来にもいいように思うんだが…。

八木　サロベツの話がでましたが、いまあそこの幌延町に放射性廃棄物の集中貯蔵施設を設置する計画が出ています。町は積極的に誘致運動をしているが、周辺の町村では反対がある。放射性廃棄物処分で一番障

害になるのは地下水です。それなのに地下水の多い湿原にわざわざ廃棄物処分施設をつくるのは疑問ですね。

大石　地下式とか半地下式とかあるんでしょう。

八木　地下、半地下及び地下一〇〇mの三つのプランがあるようです。私達はもっと科学的な検討をしたうえで慎重に決めるべきだと思い、政治が先行する現状に不安を感じますね。

大石　なぜ地元がそんなに歓迎するんですか。税金でもたくさん入るから？

辻井　なんの産業もないところですから。

■自然保護と核軍縮

辻井　核の問題が出ましたので、それに関連して八木先生、先頃の第二回国連軍縮特別総会のことなどお聞かせください。

八木　私は北大と北星大の代表としてこの軍縮総会に参加し、国連総会を傍聴したり、NGO(民間団体)の会議や集会に出席して発言しました。六月十日には九〇〇〇万の反核軍縮署名がデクエヤル事務総長に提出され、また十二日には史上最大の一〇〇万人平和大集会のデモもありました。このように平和への願望と期待が大きく盛り上がったのに、軍縮総会自体はなんら実質的な成果を収めることなく終ったことは、全く残念でした。ただこれらを通じて草の根運動こそ、軍縮と平和をかちとるもっとも強い原動力であることがはっきり示されました。

大石　全く同感です。総会は何もまとまらなかったが、全世界の民衆の核兵器廃絶、戦争反対の運動は実にすばらしく、これが大きな成果だった。

この世の最大の罪悪は戦争です。できるだけ相手国の人びとを殺し、降伏させるのが目的ですから、これ以上の罪悪はない。現在、米ソ両大国は核兵器の競争をますますエスカレートさせていますから、このままいったら必ず近い将来、核戦争が起こってしまいます。ですから軍縮を進めて、絶対に戦争をやらせてはいけません。

一番基本の考え方は、人の命を大切にすることです。ところで自然保護とは自然を守ることですが、それは同時に人の命を守り、幸せを守ることじゃないですか。ですから軍縮・平和と自然環境の保護は根は同じなんです。

国会の中で政策や思想を扱う超党派の議員連盟は、自然保護議員連盟と国際軍縮促進議員連盟の二つだけですが、たまたま私が両方の会長を兼ねて頑張っているわけです。

八木　こんどの軍縮総会でも軍縮議員連盟がデクエヤル総長に出された提言のうち「事務総長の広島長崎訪問」が、早速実現したことはよろこばしいですね。

大石　これは皆で要望しました。九月かと思ったら八月になり、実は今日、総長と軍縮議員連盟が会う手筈がきまったんですが、この対談の約束があったので、私はやめて副会長らにお願いしてあるのです。明二十六日はデクエヤルさんが国連大学で講演されるので、そこでお会いして握手でもしてこようと思います（笑声）。

八木　あの中で、「米ソ両国首脳会議を広島で開催すること」という提言も大賛成です。鈴木総理も総会での一般演説であの提言をブチ上げたら、大きな反響があったんじゃないかしら…。

大石　自信がなかったんでしょうな。私たちもあれを入れてもらいたかったんですが。でもあの演説はまあまあよかったですよね。

八木　ところで大石さんの軍縮への展望はいかがですか？

大石　私はある意味で希望をもってるわけです。世界の民衆の声がさらに盛り上がれば、米国もソ連も無視できなくなる。そこで欧州や日本などの首脳が仲介に立ち上がり、米ソ両国に話し合いを進めさせる。何回もやって相互の不信をのぞかせれば、核軍縮は可能です。どちらも国民生活を犠牲にして、核兵器をつくってるんですからね。

八木　日本にはそのイニシャティブをとる可能性が最もあるんじゃないでしょうか。

大石　そう、原爆の洗礼、武器輸出禁止、非核三原則の日本は一番先に立つ資格があるが、政府にその自信がない。

八木　その点、超党派の軍縮議員連盟が働きかけるのが一番有効じゃないかな。

■緑の地球防衛基金

大石　そういう努力はしましょう。なかなか急にはいきませんが。ところで軍縮連盟の議論の中で、世界の森林破壊が戦争に劣らぬ重大な脅威であることに気がついた。今日明日ということではないが、このまま

進めば将来は人類の破滅につながりますよ。そこで世界の森林を守ろうということになった。

いま世界の軍事費は年間六〇〇〇億ドル近い。軍縮を進めて、五〇〇〇億、四〇〇〇億と減らせば、その余裕で民生の安定をはかり、世界の飢餓も救える。同時に森林を破壊から守ることになれば、世の中がずっとよくなる。

そこで「軍縮をやれ、浮いた金の一部を世界の森林を守ることに使おう」と、「緑の地球防衛基金」をつくり、世界に呼びかけを始めた。

森林を守るのは並大低じゃないが、どんな貧困な国でも努力次第では、ある程度森林は守ってゆけるわけですよ。とりあえず世界の国ぐにの政府に対し、人びとに対して、世界の森林の育成について認識をもってもらうようにしたい。それがこの「緑の地球防衛」の理念です。

辻井　いま貧困な国でもやろうと思えばできるとおっしゃいました。私もインドやネパールへ何度か行ったんですが、ああいうところこそ燃料の補給のうえからみますと、リサイクルのできる燃料ということがあって、いわゆる先進国が金を出してやれば森林の再生ができると思います。

八木　発展途上国援助の場合、一つ問題がある、お金で渡すと途中でどこかに消えてしまうことが多い。薪が足りないなら燃料か、生活物資の形で渡すとか…。

大石　ところがモノで貰うのをいやがる国が多い、道路や輸送機関がないので、モノだと奥へとどかない。

八木　インドやネパールでは盛んに薪をきるもんだから、土地が侵蝕され肥沃な土壌が川に流されてしまう。「ネパールの輸出の最大のものは土壌だ」といわれるほどです。

大石　「ガンジス川は毎年一〇億トンの肥沃な土壌を海に流す」と本にありましたよ。リサイクルは日本ではできる。発展途上国でも「苗木をやるからお前たちで植えろ」とやったらできると思う。大したお金はいらない。こういうことを国に宣伝し、集めた金で苗木を供給するとか植林や農業の技術者を養成するなど、いろんな方法が考えられます。

八木　「緑の地球防衛基金」の運営は、たとえば知床の一〇〇平方m運動のようなナショナルトラスト的な方法も加えたら…。

大石　そうです。「基金」ですから財団法人としての基金を作るわけですが、それだけでは活動は難しい。国民全体から一人一〇〇円でも広く出してもらうのがいいんじゃないか…。

八木　方法が三つある。一つはいまの国民の零細な醵金。それから財界の罪ほろぼしの大口の醵金。第三は政府に軍事費を削減して基金にまわしてもらう。これは軍縮連盟の力で。

大石　ご意見まことに賛成です。ただ財界から何億も集めるのは不可能。「何もかも財界」でホトホト手を焼いているので。それから政府からは金は貰いません、民間の仕事ですから。政府がもし出すなら、いま言った世界の森林を守るのに使う。

八木　昨日も大石さんの講演に「緑の羽根との関係は？」という質問があったが、私は緑の羽根は国内向け、「緑の地球防衛基金」は全地球的、とくに発展途上国に主眼をおくといいと思う。

大石　よくわかりました。赤い羽根やいろんな国民的募金とも調和する方法を考えたい。

辻井　尾瀬の懐古談から始まり、北海道の湿原、さらに湿原保全の重要性、さらに大きく軍縮から地球の緑へとお話が進んできて、グローバルな視点がのべられました。先生のご構想の「緑の地球防衛基金」も大きくとりあげ、この対談をまとめたいと思います。

おわりに大石先生、北海道自然保護協会にご感想でも一言いただいて、しめくくりたいと存じます。

大石　私も北海道自然保護協会とは割合接触も多く、いろいろご案内いただいたり、自然保護団体と深いつながりをもってます。北海道はかつて殖民地的扱いを受け、森林はだいぶ破壊されましたが、まだ日本では一番大事な自然が残っている。これを一生懸命に守っていただきたいと思うんです。協会が敢然と難問にぶつかり、自然を守る努力をしているのに心から敬意を表します。私もできるだけ協力してゆきたいと思います。

八木　どうもありがとうございました。

辻井　今日は二時間にわたってお話いただきありがとうございました。これで閉じさせていただきます。